



園での保健について



社会福祉法人
六満学園
六満こども園

平成31年度 保存版

◎感染症の病気について

保健管理においては、学校保健法が適用されます。
 集団感染は、もちろん、他のお友達への感染を防ぐとともに、病気にかかった子どもが
 集団生活に適応できる状態に回復するまで右表に基づいて休んでいただきます。
 必ず受診し、病後の登園についての許可の医師の指示に従って、「登園届」(園指定
 職員室でお渡します)を提出してから再登園してください。
 ※インフルエンザ等、感染力の強い病気に家族がかかった場合、できる限りお休みください。

◎予防接種について

市からも依頼を受けて、園でも予防接種の指導、勧奨をしています。
 「からだのカルテ」において把握していますので、接種後は必ずご報告ください。
 ※接種は子どもにとって負担となる上、接種後の安静や観察は集団保育の中では
 難しい為、お休みして頂く事になりますので、お子たちの体調とお仕事の都合を
 考慮されて、計画的に接種される事をお勧めします。いつでもご相談ください。

◎与薬について

服薬中は、体力が弱っていたり、安静を要する状態ですので、できるだけお休みされる事をお勧めします。
 ※市からの指導により、園で薬を預めたり、与薬をすることはできません。
 保護者に与薬に来ていただくか、かかりつけ医に時間をずらす相談をする等してください。

◎健康管理について

少しの体調の変化でも、必ず登園時に職員にお伝えください。保育中の体調の変化
 (発熱の場合は38℃以上・2回以上続く下痢嘔吐等)があれば、連絡させていただきますので、できるだけ速やかにお迎えをお願いします。

◎園医先生

- ・内科医 田中医院 (Tel 822-3233) 田中善啓先生
- ・歯科医 近藤歯科 (841-1380) 近藤 崇先生
- ・学校薬剤師 千カサ薬局 (841-2049) 近田 厚子先生

A 登所停止が必要な感染症

病名	主な症状	登所のめやす	潜伏期	感染経路	感染しやすい期間
はしか (麻疹)	発熱2~3日間は38℃前後の発熱、鼻水、咳、目やに等の症状がでる。 一度熱が下がると再び39~40℃の高熱、発しんが出る。	熱が下がり3日を経過してから	8日~12日	空気感染 飛沫感染 接触感染	発熱が出る1~2日前から発しんが出てから4日の間
風しん	発熱と同時に発しんが出て、耳の後ろや首のリンパ腺が腫れる。発熱、発しんは3日くらいでなくなる。	発しんがなくなってから	16日~18日	飛沫感染	発しんが出る7日前から出た後の7日間
みずぼうそう (水痘)	発しんが全身に出て水疱となる。約1週間後には、全部がかさぶたになる。不機嫌、食欲不振、発熱を伴うこともある。	すべての発しんがかさぶたになってから	14日~16日	空気感染 接触感染	発しんが出る1~2日前からすべての発しんがかさぶたになるまで
おたふくかぜ (流行性耳下腺炎)	1~3日間微熱が続く、多くは片方の耳下腺が軟らかく腫れ、軽い痛みがある。2~3日経つと反対側も腫れてくることもある。	耳下腺、顎下腺又は舌下腺腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になってから	16日~18日	飛沫感染	耳下腺の腫れる7日前から腫れた後9日の間
百日咳	かぜのような症状が1~2週間続き、次第に咳が激しくなる。夜間に咳が多く、顔が真赤にして苦しいが嘔吐することもある。	特有の咳が消えるまで又は6日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了してから	7日~10日	飛沫感染	咳が出はじめてから2週間、抗菌薬内服開始後7日間
インフルエンザ	突然高熱が出て寒気、頭痛、腰痛、関節痛等がおきる。咳は回復期になって出てくる。食欲不振や不機嫌程度の症状の時もある。	発症した後5日を経過し、かつ、解熱したあと3日を経過してから	1日~4日	飛沫感染	発病前1日前から発病後3日の間
咽頭結膜熱 (プール熱)	高熱とともにのどの痛みと赤みを伴い、目の充血、目やに、涙目、頭痛、食欲不振、全身倦怠感を伴うこともある。	発熱や目の症状がなくなり2日を経過してから	2日~14日	飛沫感染 接触感染 経口感染	発病後2~数週間
流行性角結膜炎	目の充血、目やに、涙目。乳幼児は発熱、不機嫌を伴う。感染力が非常に強い	目の症状がなくなり、主治医が登所を認めてから	2日~14日	飛沫感染 接触感染	初期数日が最も多いが、その後、数か月続くことがある。
急性出血性結膜炎	急性の結膜炎症状(目の充血、目やに、涙目)で結膜出血が特徴。	目の症状がなくなり、主治医が登所を認めてから	1日~3日	飛沫感染 接触感染	ウイルスは咳や鼻汁から1~2週間、便からは数週間~数か月間排泄される。発症後2週間
腸管出血性大腸菌感染症	腹痛、水溶性下痢及び血便を呈する。嘔吐や発熱を伴うこともある。	症状が治まり、かつ、抗菌薬の治療が終了し、48時間あけて連続2回の検便によっていずれも陰性が確認されたもの	3~4日	汚染食品による経口感染、糞口感染、患者や保菌者の便からの二次感染	便中に菌が排泄されている間

B 条件によっては登所停止の措置が必要と考えられる感染症

溶連菌感染症、ウイルス性肝炎、手足口病、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑、マイコプラズマ感染症
 感染性胃腸炎、サルモネラ感染症、カンピロバクター感染症、RSウイルス感染症、EBウイルス感染症
 サイトメガロウイルス感染症、単純ヘルペス感染症、帯状疱疹、突発性発しん